



第30回愛知県理学療法学会

市民公開講座

生きがいに繋がるリハビリテーション

～音楽と医療のコラボレーション～

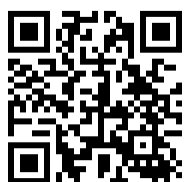


令和4年 4月24日 日

15:00～16:00

入場無料

名古屋国際会議場
センチュリーホール



講師：愛知県立芸術大学 教授
名古屋大学予防早期医療創成センター 客員教授
石垣 享，博士（医学）

運動生理学等の知見から演奏に関係する身体の使い方などを、3次元動作解析や筋電図のバイオフィードバックによる指導で実践している。

お申し込み先

<https://apta30.aichi-npopt.jp>

声楽家による発声法の実演を予定

新型コロナウイルス感染拡大防止のため
先着100名様とさせていただきます。



石垣 享

愛知県立芸術大学教授・名古屋大学予防早期医療創成センター客員教授

呼吸器の在宅リハビリテーションの主な方法は、屋外での歩行であり、そのアウトカムは歩数または距離となっております。日本は四季があり、1年間を通じて歩行に相應しい温暖な気候ではないことは、皆様もお分かりだと思われます。特に、夏季の猛暑や冬季の寒冷環境に加えて、風、雨、雪などの気象条件は、屋外での歩行を安全に行うことが出来ず、在宅リハビリテーションの継続性には物理的限界が存在します。

芸術大学で体育の授業を履修した女子学生の中で、声楽および管打楽器専攻の学生の下部胸囲および臍部腹囲の最大囲と最小囲の差は、音楽の他専攻の学生および美術学部の学生よりも有意に大きく、肺活量も同様の結果でありました。このことは、本格的な日々の音楽トレーニングが呼吸に関連する生理学的な機能を向上させることを示しております。歌唱は、プレスコントロールが必須なことから、呼吸筋の活動を高めることを誰もが理解できるのではないのでしょうか。そうすると、歌唱は、屋内で安全に呼吸筋を鍛えることができる活動にもなります。それ以外の面では、歌を歌うことの楽しみや、精神的なストレスの解消として、さらに、合唱等で多くの人達との交流も可能であることから、生涯に亘る生き甲斐を生み出すことができます。

現在の日本は、「人生、100年」と言われ始めております。2021年時点で日本の100歳以上の高齢者は、8万6千人を超え、高齢者数および総人口に占める高齢者の割合も含めて約半世紀の間、毎年のように記録を更新しております（総務省統計局、2021）。今後の日本では、高齢者の医療費および介護費の制度を変えることで支出を抑えるのではなく、これらの社会保障費を使用する期間を短縮させることで支出を抑制する戦略が必須となります。その際に、スポーツや運動ではない文化的な活動により身体機能を向上させる新たな取り組みを創出することは、誰もが取り組み易い健康向上のためのプログラムになるのではないのでしょうか。この度は、優秀な教え子とのコラボレーションで、その可能性を探る予定です。

PROFILE

西畑 佳澄

ソプラノ

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院声楽専攻首席修了。これまでに、田中万美子、佐橋美起、末吉利行、各氏に師事。

オペラでは、「魔笛」クナーベⅡ、パミーナ役「カルメル会修道女の対話」サンシャルル役、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「愛の妙薬」ジャンネッタ役、ワルキューレヘルムヴィーゲ役で出演。

また、宗教曲のソリストとしても高い評価を得ている。

現在、愛知県を中心に、オペラや演奏会に多数出演している。

愛知東邦大学非常勤講師。

春日井市民第九合唱団、知多市勤労文化会館第九合唱団、豊田フロイデ、アーチ・ヴォイス長久手指導者。

大久保 亮

テノール

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学院声楽専攻首席修了。

オペラでは、ワーグナーの楽劇「神々の黄昏」ジークフリート役を始め、「カルメン」「こうもり」「ヘンゼルとグレーテル」「子供と魔法」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「フィデリオ」などの作品に出演。

また、バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「クリスマスオラトリオ」のエヴァンゲリストを始め、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」、モーツァルト「ミサ曲ハ長調」「レクイエム」、ベートーヴェン「ミサ曲ハ長調」「交響曲第九番」、メンデルスゾーン「エリヤ」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」などにテノールソリストで出演。リサイタルも定期的に開催し、シューベルト「美しい水車小屋の娘」「冬の旅」「白鳥の歌」、シューマン「詩人の恋」、マーラー「さすらう若人の歌」を発表している。

鈴木 恵深

ピアノ

桜丘高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学首席卒業（桑原賞受賞）、同大学院博士前期課程を最優秀の成績で修了。

在学中、卒業演奏会、修了演奏会等に出演。

バリ国際音楽アカデミー、ウィーン国立音楽大学マスタークラスに参加し、研鑽を積む。

第22回日本クラシック音楽コンクール全国大会第5位。第35回読売中部新人演奏会に出演。

これまでに柳川友美、芝本容子、松本総一郎の各氏に師事。

名古屋学芸大学ピアノインストラクター、中部コンピュータ・パティシエ・保育専門学校非常勤講師を経て、現在は後進の指導にあたりるとともに、愛知県内を中心に演奏活動を行っている。